

研究所だより

～げんき発信～

『一月はいぬる、二月は逃げる、三月は去る』とはよく言ったものです。今年も、はや二月。令和最初の年度末を迎えようとしています。

そのような中、1月28日に佐川町人権教育研究協議会冬季集約大会が開催されました。

昨年度から、この会に併せて在校研究員の発表も行われるようになりました。2年目の在校研究員の発表の様子をご紹介します。

佐川町人権教育研究協議会冬季集約大会

『学ぶ意欲の基盤を育てるために

～ICT を活用した論語学習による豊かな心の育成～』

斗賀野小学校 吉門修平教諭



電子黒板・タブレットを活用した論語学習の取組を発表されました。

子どもたちの興味を引く提示の仕方や町長さんの論語授業、論語カルタ大会などの系統立った取組など、子どもの実態にあった丁寧な実践をお習いすることができました。

そして、論語学習で子どもたちがどう変容したかをQ-U・学校生活アンケート・自己肯定感の結果比較で分析されていました。

参加者からは、今後論語に取り組むにあたり、子どもたちとどう出会わせていくか、学年に合った指導内容をどう組み立てればいいのか、出されました。これからの取り組みが大いに期待されます。

令和2年 2月20日

R 元年度 No. 4	発行 佐川町教育研究所
	高岡郡佐川町甲356番地2 TEL (0889) 22-1150

『地域材を活用した議論学習

～「自伐型林業」を題材として～』

佐川中学校 岩崎圭祐教諭



昨年度は、愛媛大学教育学部 井上昌善講師のご指導の下「議論する社会科」に挑戦し、実践・分析・検討を重ねながらより効果的な実践方法や指導方法に関する取組が発表されました。

今年度も井上氏を招聘し、地域教材を活かした議論学習の効果的な指導法の研究に取り組みました。佐川中学校社会科部として提案性に富んだ授業も積極的に公開され、ふるさと教育を進めるあたって大きな勇気と元気をいただきました。

『地域で授業を作る枠組みが必要』との締めくくりの言葉。胸に刻みます。2年間ありがとうございました。

在校研究員って？

佐川町内教職員の自発的な教育研究開発の促進を図ることを目的とした、佐川町教育研究所の事業の一つです。個人またはグループで参加し、1年間それぞれのテーマに添って研究していただきます。研究委託料として1組あたり上限10万円の助成があり、研究に関する書籍や文房具等の消耗品、旅費、謝金に充てることができます。

来年度に向けて、是非ともご検討ください。